



“ さつまいも ”

理事長 高杉 洋史



玄海ゆりの樹幼稚園の天気についてのお話です。
年中組、年長組の皆さんには期待外れの芋ほり大会でしたが、年少組のところとみらいたいじゅ組のところは何とかできていました。同じ畑なのに不思議です。来年は少雨対策に一段の工夫をして豊作を目指します。スポーツフェスタも芋ほり大会も天気予報では心配な予報が続いたのですが、子どもたちの運の良さが幸いして全て予定通りにできました。玄海の園長としては連日天気予報とにらめつこの秋でした。気象庁の発表データもきめ細くなり、特に二日先までの予想天気図と半日先までの雨雲の予想画像に助けられました。
これからは格差が広がる社会といわれますが、経済的格差だけではなく、天気と同様、いかに情報を集めてそれをどのように解釈するかという情報処理格差の社会になりました。情報は玉石混交ではありませんがインターネットで手に入れやすい時代になったので、子どもたちの考える力をいかに育てるかが幼稚園にも求められています。一方スマートフォンの影響なのか、自分で考える前にネット検索で答えを見つけてしまうので、考える力が落ちているという話もあります。特に相手の立場を考えて話をするこの大切さが見直されています。
私のような高齢者になると脳の機能が落ちて自分の気持ちをコントロールできない状態になりやすいそうなのですが、若い方でも油断すると短絡的になりやすい世の中になってきたようです。子どもたちには相手の気持ちを思いやる力を育てようと思います。そうすることが社会から好まれ大切にされ、気持ちよく自分の力を発揮しながら生きることができるとなれると思うからです。

新井紀子さんという数学者が「AI vs 教科書が読めない子どもたち」という本を著されています。中学生や高校生のことですが、幼児教育が基礎にあることは読み取れます。

教科書が読めないという意味は平仮名や漢字が読めないという意味ではなく、書かれていることが著者の意図通りに理解できないという意味です。文章を読むということも確かに文章を書いた人の立場に立つて何を表現したいのかに思いを馳せる気持ちがないと誤読になりますね。算数の文章題で「AとB」というところから「AとB」が結構いるそうです。国語ではAとBは違う文字ですからAとBが同じなんて無茶なことを言うと考えられるでしょう。

別の本に書いてあったことですが、小学生低学年の子の引き算を間違えた原因が「大きな数から小さな数を引く」ということだけが頭に入り、たとえば $80-9$ などの問題では一のけたは $0-9$ で、十の桁は 80 で、だから 20 と正解できるので、 $80-6$ になると一のけたは $0-6$ と 7 なら 7 の方が大きいので 7 から 6 をひくと、一のけたは 8 から 6 を引くから 2 、したがって 20 と答え間違えるという話を読みました。子どもの中には「大きな数から小さな数を引く」という意味を誤解していることもあるのです。私だって「ふるさと」という歌の歌詞にある「鬼追いしかの山」を「鬼美味し」と思っており、「追いし」と正しく認識したのはこの歌を習って数年後でした。
子どもの教育も自分の教育もなかなか興味深いですね。





生きていく上で必要なこと ～ゆいの樹幼稚園

職員の愛言葉より～

その4

園長 高杉 美稚子



夏の年中組の古塚、玄海ゆりの樹幼稚園の交換三留学、アドベンチャーツアー、年長組のワンディキャンプに引き続き、今学期の大きな行事、大感動のスポーツエスタ月間が終わりました。

アドベンチャーツアー、年長組のワンディキャンプでは、送迎のご協力を賜りありがとうございました。そして保護者の皆様もドキドキして待たれた時間だったでしょう。保護者の方から離れて過ごす、夏の行事を体験して一段と成長した園児達が、今度は全園児が学年ごとに取り組んでくれたスポーツエスタ月間でした。

九月の地島ゆりの樹幼稚園の全島運動会島的全島民が集まっていた昔ながらの全島大運動会から始まり、「コロナ禍にありますので、10月の古塚ゆりの樹幼稚園、玄海ゆりの樹幼稚園、合わせて13回のスポーツフェスタでした。夏休みのお家の姿と異なる幼稚園での集団での育ちの姿の中からご家族にとって、園児達にとっても、まだ一味違った成長の姿に、素晴らしい思い出の1ページになったことと思います。

「最後まで諦めないでよくやったね。楽しかったね。心は一つで頑張ったね。感動したね。」という心の原風景が一つでも多くある人は、自分の命も人の命も大事にしてくれると思います。この思い出が、次に繋がる大きな一歩となってくれることでしょう。

特に玄海ゆりの樹幼稚園の年中・長組の当日は午前中50%午後80%の降水確率の中の開催でした。

満3歳児・年少組は、午後から40%の確率の中のカンカン照り、お天気の心配がなく、ちょうど良い天候に越したことはありませんが、ハラハラしながら待つ間、それだけ私達大人もドキドキ感が大きく、不安も大きく、だからこそその大きな感動の時間にもなりました。

園児たちの成長の姿に感動したことはもちろんのこと、職員の成長にも大きな実りをもたらせてくれました。たくさんのお話を重ね、企画立案、構成し、園児たちにとって、最も感動できる体験を……という願いで、取り組む毎日でした。

学年別になってから、その学年だけでも、安全が保障された中で、最大限に盛り上げるにはどのような内容がいいか、毎年毎年熟考します。園児たちが、休憩も取りながらもスムーズな進行をすることや、短い時間だからこそ、バックヤードの職員の動きにも気が抜けません。

準備が無駄になった方がいいと言いつつ、雨や怪我の場合の想定も含め、最大限の準備をしますが、その中で、職員一人一人、自ら考え、率先して動く行動変化としたり、回結力が育ち、まさに「子育ては自分育て」子ども達に教えられ、育てられる練習時間でもありました。

園児達に見本をしっかりと示し、よく見ること、音楽を聴くこと、人との距離感などを、自らの行動で示し、的確な言葉かけで、静かな中にもきちんとポイントを抑え、先生自身の思いが届く指導をしてくれました。

園児たちがくれた感動にありがとうの気持ちと共に、一緒に味わいながら楽しんで取り組んでくれた職員にもありがとうの気持ちでいっぱいです。応援して下さい保護者様にも感謝で一杯です。本当にありがとうございました。

さて、今回も私の幼稚園での職員への口癖が愛言葉になっていった職員の愛言葉の続きです

「ゆりの樹幼稚園、職員のアラ探し」

「いいね、素敵だね、大好き！」・「ぜひぜひいいね」

どうも回の愛言葉です。

「ぜひぜひいいね」

いじけるのは自分を辛くする。すべきなのは息だけ、あなたがどうしたいかが大切。

「シンプル イズ ベスト」

全ての答えは自分の中にある。そして本当の答えは心の目で見て、心の耳で聴いて、自分の心で決める。だから自分で生かす。

いじめて自分をだめにするのか、落ち込みたい時はとことん落ち込むのもいい、落ち込んで穴の中に入って、自分と向き合って、学び、成長し、数倍の達成感を味わうのか、落ち込まないで、そこで何が起きているか俯瞰し微動だにしないか。決めるのは自分です。牛を水飲み場に連れて行っても飲むかどうかは牛次第です。すべは自分次第です。

人間にはいろんな感情があります。「ねだみ、そねみ、嫉妬、怒り、悲しみ、苦しみ、せつなさ、情けなさ、悔しさ、いらだき、焦り、あがき、不安、後悔、嬉しさ、楽しさ」切ないけれどこの感情があるから人間なのです。このことを感じるのができるのは、生きているからなのです。人間だから仕方ない、生きているから感情を持つのは当然の前、その感情をどう自分が扱つかです。妬み続けて、悪口を言い続けるか、あのような素敵な人になりたいと行動変化するか、決めるのは自分です。

変わる(エクスチェンジ)とは難しい。理想的な自分になるのも難しい。そして変わる(エクスチェンジ)はむしろ簡単です。まず、そんな自分と向き合ってください。

「いいね」なのです。そんな自分に気づいていければいいのです。だから、変われなかったら変われないでいいのです。そのままの私をまず受け入れることです。

気づいて、その選択が今まで、自分が生きていくためには必要だったと、過去の駄目だった自分も受け入れること。

その中に答えがあるからです。受け入れた時に初めて答えがみつかります。駄目だと自分が思っているその自分にそれが必要だったと、受容すれば必ず行動が変わります。受容すれば、謙虚になります。素直に、正直になれます。受容すれば、「わがまま」を、教養、助けて言えるのです。そして、そんな自分を受容すれば、感謝できます。いかに自己肯定に繋がります。

「感謝は心と自分への最高の承認」

「意見はファンレター、悪口はハッピーメール、賞賛の裏返し、期待されている証拠、感謝あるのみ。」

ありがたの言葉以上のものはないと私は思います。どんな感情の時でも、まずはその起こった出来事で、自分の弱さやダメなところ気づくことができた、ありがたうと、感謝できれば、そこで冷静になります。冷静になれば、物事も人間関係も俯瞰できます。

「自分と今、未来は変えられるけれど、過去と他人は変えられないのです」

変えられない他人を前に苦しいことは、自分を傷つけるだけです。もちろん、自分が変われば相手が変わることは本当にあります。それは、相手が変わったのではなく、自分が変わったから、相手の違う良い面が見えただけに過ぎないかもしれないのです。

そしていかに気づいていけば、いつの間にか、謙虚さ、素直さ、正直さ、感謝の気持ち、思いやり、自己受容が育つのです。目に見えない行動で育てることは難しいことなのに、目に見えないものを感情を育てるのはもっと難しい、そしてだからこそ、その目に見えないものを

育てるには行動変容以外にはないのです。だから、まず「ごめんささい。ありがたう、わかりません、教えて、助けて」とい言葉をもっと発する、この行動をすることから始めればいいのです。

思い通りにならないのが人生。思い通りにならないからおもしろい。苦しいことは生きている証拠、苦しんであがいて、こんな自分だから経験できた、そのおかげで今がある、そのことに感謝すれば、その人生こそが最も面白いがあるのかも知れません。

また、最近はインターネットが普及してきて、「あることないこと」ではなく「ないことないこと」が言われる時代になってきました。「いとも言われる、しないでもない」そんな時代になりました。

この時代には、感覚の鋭敏性と共に、「鈍感力」も必要な時代です。何が良かったか、悪かったか、先が読めない、難しい時代に入ってきました。そんな時代だからこそ、起こった悪いことを悪いことと捉えるのか、だから良かったと捉えるのかも自分次第で変わります。

「必ず上手にく、今が最高に幸せ、」

「今日が人生で一番若い日」行動しないで後悔するより、行動して学ぶ。人生は二度ない。自分の為の、自分自身の人生。

だから、最後にこの言葉を自分に、職員に伝えます。必ず上手にくのです。選はなかった道ではなく選んだ道がよかったという行動をこればいいのです。そうすれば必ず、幸せになれます。だって、選はなかった道は経験できないのですから。「無理せず、むらなく無駄なく」「小さな一歩を大切に」生きていきましょ。そして、同時に時として「無理も、むらも、無駄もあってもいい、大きく踏み出す時があってもいい。」のです。「最初の1歩」を踏み出す、勇気を持つことです。今日が人生で一番若い日なのです。人生に遅い事はありません。全ては気づいた今からです。